

す ら す ら い え る よ

－ 九九を通してがんばる力を －

- 1 学 年 第2学年〔前期〕
 2 主題名 しっかりとやろう〔1－(2)〕
 3 ねらい 九九を覚えようと努力している主人公の気持ちを考えることを通して、自分がやらなければならない勉強や仕事は、最後までやり遂げようとする態度を育てる。
 4 資料名 「すらすらいえるよ」
 5 展 開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 九九を唱える。 ○ 九九を言ってみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2の段や5の段は自信があるぞ。 ・ 苦手だな。 	○ 学習した九九を唱えさせることで、資料への興味付けをする。
展 開	2 資料「すらすら言えるよ」を聞いて話し合う。 ○ 今日の宿題を聞いて、ぼくはどんなことを考えているでしょう。 ○ 頭がぼうっとしてきたぼくは、どんな気持ちでしょう。 ◎ やっとすらすらと言えようになったぼくは、どんなことを考えているでしょう。 3 自分の経験を振り返って話し合う。 ○ しっかりと頑張っていることはありますか。それはどんなことですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしよう。困ったな。 ・ 七九は何だったかな。 ・ 言えるようになりたいな。 ・ もう言えないや。 ・ 何回やってもできないからもうやめよう。 ・ 途中まで言えるからいいや。 ・ やった。やっと言えたぞ。 ・ あきらめないでよかった。 ・ ぼくもやればできるんだ。 ・ 早く先生に九九を聞いてもらいたいな。 ・ 逆上がりの練習を繰り返している。 ・ 漢字練習を頑張ったら、テストの点が上がった。 ・ 毎朝起きたら、自分のふとんをたたむようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が九九を覚える時、どんな気持ちだったか想起させ、主人公の気持ちを考えさせる。 ○ 九九を覚えるのをやめようかと思っている主人公の気持ちに共感させる。 ○ ぼくのほっとした気持ちや満足感に共感させるために、ぼくの考えていることをワークシートに書かせる。 ○ 「こころのノート」P21の事例を読み、自分がやらなければならないことをやり遂げようとしていることを振り返らせる。
終 末	4 児童の日記を読む。 ○ 友だちの日記を紹介します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことでもしっかりと頑張ることが大切なのだな。 	○ 頑張っている友だちの姿を紹介し、自分がやらなければならないことはしっかりと頑張ろうとする意欲をもたせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、低学年の内容項目〔1－(2)〕「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。」をもとに設定した。自分がやらなければならないことがしっかりとできること、何事も粘り強く取り組み、努力し続けることは、児童が自立していく上で大切なことであるとする。そこで、低学年の段階で勉強や仕事、自分でやると決めたことを最後までやり通そうとする態度を育てていく必要がある。また、低学年の児童は他律的な時期にあり、家族や先生が言うからやるという段階にあるため、「自分には、やればできることがたくさんある」ことに気付かせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期

本資料は、自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行おうとする心構えを育てることをねらって作成した。また、資料中の主人公が家族の励ましを受けながら九九を一生懸命覚えようとしている姿を描いたことから、算数科で九九を学習する第2学年の2学期以降に扱うとよい。

イ 資料の中心場面やそこで考えさせたい内容

中心場面では、九九を覚えることをやめてしまおうか、それとも続けようかと葛藤した主人公が、家族の励ましを受けて最後まで頑張り、やっとのことですらすらと言えるようになった時の思いに寄り添わせたい。また、児童が九九を覚えた時の体験も振り返らせることで、努力することの大切さを感じ取らせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

資料中の主人公の考え方や感じ方に共感させることによって、現在の自分の価値観に気付かせ、自覚を促すという意図で資料を活用するために、導入において九九を唱える活動を取り入れるとよい。

イ 中心発問における学習活動の工夫

主人公の気持ち共感させるために、児童を「ぼく」の役、教師を「お父さん」役にして役割演技を行う等、学習活動を工夫したい。

ウ 価値の一般化の工夫

児童が資料による話合いを通して考えたことや感じたことを価値の一般化でも生かしたい。そこで、自己を見つめ、自分の問題として受け止めさせる発問という観点から、児童の直接体験やその時の気持ちや考えを問う発問を行うようにしたい。

また、多くの児童の体験を引き出すために、「こころのノート」の事例を手がかりに自分の経験を振り返らせるとよい。

エ 終末の工夫

ねらいに関わる児童の日記を紹介すること等により、実践意欲を高めたい。この他、児童一人一人の日々の頑張りを教師がスライドにして紹介することも効果的である。